インドネシア・サンギヘ島での日食

田中ちひろ

今回、インドネシアのサンギヘ島へ日食を見に行ってきましたので、写真と簡単な報告をお送りします。

◆観測地

インドネシア北スラウェシ州サンギヘ島

◆参加者

インドネシア旅行社が企画した観測ツアーで、我々夫婦２名を含めて計８名が参加。平均年齢５３才という中高年ツアーで、最高齢は８３才の元軍医。ただし２０代の若い女性も１名いた。（男５名、女３名）

◆交通手段

ツアー本体は10/18 成田発→シンガポール（泊）→10/19 マナド着。

我々２名のみ10/21 成田発→ジャカルタ（泊）　→10/22 マナド着後、本体と合流し、

10/22 （２０人乗りのプロペラ機で約１時間）にサンギヘ島へ渡りました。

＊　飛行機のほか、マナド港からフェリーあり。所要時間約１０時間。飛行機もフェリーも隔日運行。

◆皆既日食の模様など

気象条件としてはボルネオ北部より１０％ぐらい良い程度で、決して楽観できる予想ではなかったが、案の上、当日の明け方に２度もスコールがあって観測が危ぶまれました。しかし、ＡＭ９：００ごろから天気が回復しはじめ、第１接触のころにはだいぶ青空が広がりました。第２接触の３分前ぐらいから西のセレベス海上の雲があかね色に染まり始め、あわてた鳥の鳴き声も聞えた。第２接触は我々の予想より６秒ほど早く起こりました。折しも、淡いベールのような雲が太陽の前を通過中で、その雲の帯は結局第３接触まで太陽の前に居座ってしまい、そのため外部コロナについては今ひとつはっきりしませんでした。しかし、内部コロナや西縁から吹き出した細長いプロミネンスの美しさなどは十分に堪能することができました。皆既中は、時計の文字盤やカメラのシャッターダイヤルが十分わかる明るさで、昨年の南米ペルーで見た日食と比べると明るく感じました。なお、皆既の前後、白いシートを広げてシャドーバンドを注目していましたが、現れませんでした。以上のような状況から、日食情報に掲載された日食天気階級表で３と判断しました。皆既継続時間が１分５２秒でした。

◆その他

同島へは我々日本人８名のほか、ドイツ人３名、アメリカ人１名、ベルギー人１名、イギリ

ス人数名が来島したとのこと。

地元インドネシアからは、バンドンの国家航空宇宙センターの観測チーム数名、ジャカルタのプラネタリウムのチーム３名、マナドの大学生ら５０名、その他取材陣３０名などを含め、計３００人が今回の日食を見にやってきたとのことです。　（ちなみにサンギヘ島の人口は約３００００人）

なお、戦後この島にやってきた日本人は我々が初めてではないかとの話しです。

◆写真データ

１９９５年１０月２４日　１３ｈ１３ｍ５０ｓ（現地時刻）

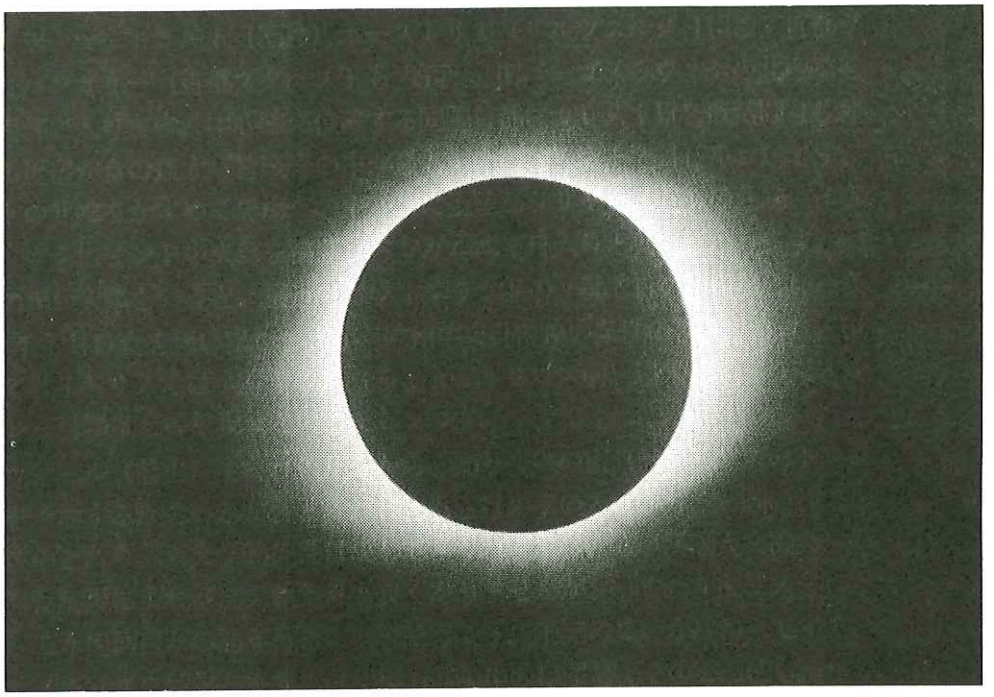
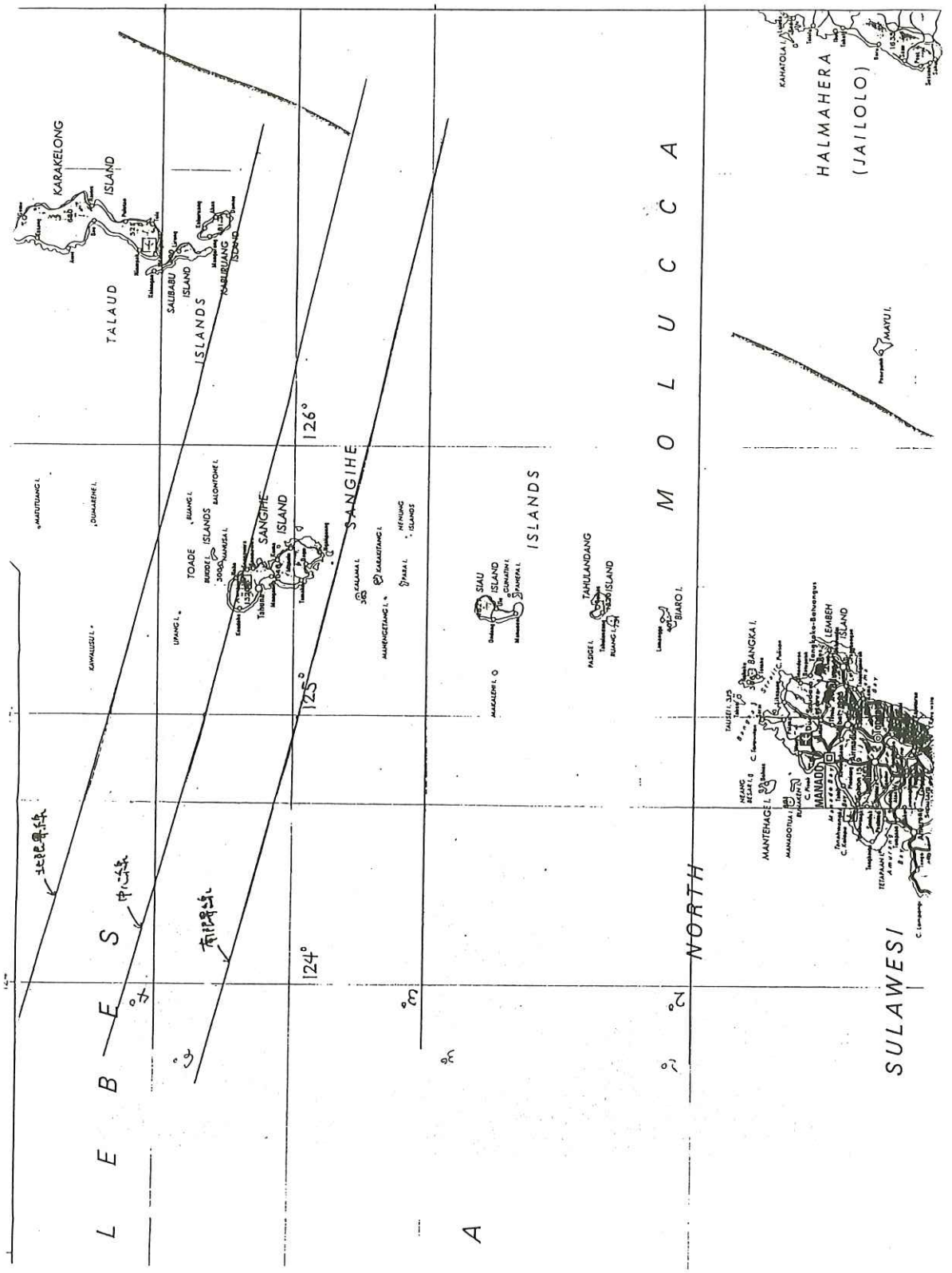
タカハシＦＣ－５０＋バリエクステンダー＋ニコンＦ４ボディー

スペースボーイ赤道儀自動ガイド、　フジクロームプロビア１００、　露出１秒

観測地（ＴＰＣより読み取り）

０３°３９′　Ｎ

１２５°２４．５′Ｅ



スラヴェシ北部とサンギヘ島を通る皆既帯